

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表										
法人名	株式会社リボン	代表者	飛田 尚文	法人・事業所の特徴	当社は総合福祉サービスを展開しており、様々な事業展開を行っています。当事業所は「ファミリアいしづかの理念」に基づき、馴染みの地域でいつまでも安心・安全に過ごせるように、家族や地域の人々と共に支援できる関係作りを特徴とする事業所です。					
事業所名	ファミリアいしづか	管理者	藤井 由紀							
出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	4人	人	8人
項目	前回の改善計画		前回の改善計画に対する取組み・結果		意見		今回の改善計画			
A. 事業所自己評価の確認	職員にヒヤリングを行い、個々の成長につながる研修受講を推奨していく。		個別研修計画を作成し、個々の成長につながる研修を受講する事が出来た。		毎年評価をしていると思うが、1年間で成果が出るものと出ないものがあるのではないかと。		職員個々の研修計画に沿い、研修を受講し介護の質を高めていく。			
B. 事業所のしつらえ・環境	道のゴミ拾いを職員の通勤時の動線、利用者との散歩時に行い、引き続き環境整備に努める。		利用者との散歩時や職員が時間を作り、草取りを行い環境整備に努めた。居室は、日替わりで利用者が利用するので、掃除、消臭に気を付けている。		事業所内は、外からではわかりにくい。		年に2回の大掃除を実施。事業所内・外の環境整備に努める。			
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ感染症での交流自粛が緩和された時に、素早く交流を始められる様に、準備を進めておく。SNS発信を続け、活動を知って頂く。		近所の方を招き、ハロウィンパーティーを行った。SNSでは、家族や子供、孫が見て喜んでくるとの意見を貰っている。		事業所が相談しやすい場所になるには、利用者家族からの口コミを利用するのもよいかも思えない。石塚町運動会は開催出来なかった。行う事になれば、参加して欲しい。		利用者が住む近隣の方に、心配な方がいないか、いつでも相談にのる事を発信していく。			
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	住み続けられる町の良さを感じて頂く為に利用者の要望を聞き取り、外出の機会を計画する。		外出レクの要望を聞き、買い物や、市展の鑑賞、花見ドライブ、紅葉ドライブ等、楽しんで頂いた。		利用者と散歩した時に同年代の方に声掛けし、会話する事も、地域のかかわりになる。そのかかわりを運営推進会議で報告すればよいと思う。		事業所周りを散歩中や、職員の出勤時等、近所の方との関りを深めていく。			
E. 運営推進会議を活かした取組み	積極的に利用者、家族、地域の方からの意見や苦情を頂けるよう取組みを行い、職員間での検討時間を設ける。		意見や苦情を直接聞いたり、連絡帳を活用し、職員間で検討を行い、改善を行った。運営推進会議では、地域の心配な方等の事例検討が出来ていない。		運営推進会議時、その他で質問している事が、地域の心配の方等の事例検討をしていると認識している。		運営推進会議で、地域の心配な方等の事例検討を行う。			
F. 事業所の防災・災害対策	避難訓練を継続し、災害に備える。火災時のDVD映像を、職員で視聴し勉強会を行う。		火災訓練、夜間招集訓練、水害訓練を継続している。火災時のDVDでの勉強会は、まだ行っていない。		地域の防災訓練も、地域の対応で手いっぱいだった。どこまで連携できるか課題。事業所の防災訓練に参加したが、十分な対応をしていた。防災訓練時、市役所にも声掛けをして欲しい。		継続して避難訓練を行う。BCP訓練を年4回行い、災害に備える。			